

スポ東だより  
相撲編

華々しく注目される硬式野球部の活躍に、負けず劣らず全国大会でその強さを見せつけているのが相撲部だ。この秋には本学からの「学生横綱」誕生という新たな歴史を刻んだ。今回は相撲に関わるトピックをまとめて紹介する。

# 第85回全国学生相撲選手権大会個人戦優勝で学生横綱の王冠を手に!

榎本翔太 君  
(企業法学科 4年)

**柔軟な身体と柔軟な心で、  
手中に収めた学生相撲王者の冠**

11月3日(土)、第85回全国学生相撲選手権大会個人戦が開催された。この大会は数ある学生相撲大会の中でも、最高峰とされる。優勝のビッグタイトルを手にしたのが、相撲部の榎本翔太君。本学から学生横綱が誕生したのは、第80回大会の横山英希さん以来、5年ぶり2人目となる。

榎本君が相撲を始めたのは小学生の時、地元草加市の相撲大会に参加したのがきっかけだ。中学生で全国ベスト32に入り、その後東洋大学附属牛久高校に進学した。

順風万帆の相撲人生に陰りが射したのは、高校2年生の時。練習中の立ち会いで首に痺れを感じた。原

因はヘルニア。普通であれば挫折に心が負けても不思議ではない。だが、榎本さんは違った。常に明るくて前向き、そしてマイペースな彼は、柔軟な心で危機を切り抜けた。「相撲で入学している以上、簡単に諦める訳にはいきませんでした」。その甲斐もあり3年に入った練習時、首の痺れを感じなくなっていることに気付く。「これならやれると思えました」と当時を振り返る。

怪我の間、闘えなかった悔しさを経験し、身に付けたのは、頭を使う相撲。全力で挑む相撲も素晴らしいが、見栄を張らず、自分の肉体を上手に使い相撲を取る。「首を故障している自分が、正面から挑んだら身体がぼろぼろになってしまう。長く相撲を取り続けたかったから思い、いたと言っか」。

勝利を飾った「つり出し」も、榎本君の天性が持つ、柔軟な身体を活かした技だ。正面から相手を抱えこ

んで持ち上げて土俵外に出す。柔軟な肉体と精神を持っていたからこそ、成し得た偉業と言える。卒業後は就職して実業団で相撲を続ける。周囲に惑わされることなく、自らを知っての選択に、心からのエールを贈りたい。

## 4名が準々決勝に進出した 個人戦は東洋大同士の対決に 3位は須麻聡太君

榎本君が優勝するまでの過程では、準々決勝・準決勝で東洋大の選手同士の対決に。第3位には須麻聡太君(企業法学科4年)が入賞した。同選手権大会での1、3位同時入賞は本学史上初の期待のかかった翌日の団体戦では、ベスト8に進出するも、まさかの敗退。インカレ制覇は次の目標へと持ち越された。



前列右側が榎本君、左側が須麻君

## 大相撲新番付 木村山関、十両昇進へ



11月28日、大相撲初場所(1月13日初日)の番付編成会議において、木村山(きむらやま)関(春日野部屋/本名:木村守さん、平成16年法律学科卒・和歌山県出身)の新十両昇進が発表された。

在学時代は、全国学生相撲選手権大会・団体戦制覇を果たした第78回・第80回大会の優勝メンバー。東洋大学相撲の黄金期を築いた立役者の一人だ。九州場所でも十両昇進を果たした磋牙司(さががつかさ)関に続き、本学相撲部OBの躍進が続いている。

こちらがホームカミングデー「即興切り絵ライブ」で百鬼丸さんが製作した、相撲の取り組みをモチーフとした作品。つま先立ちながら、土俵をしっかりと踏みつける指先の力強さが伝わってくる。まさに、カッターの刃先によるマジック。



個人戦決勝で近畿大・杉山大輔君(右)をつり出して破った榎本君(大阪・堺市大浜公園相撲場) [写真:時事通信社]